

家庭科通信

54

2014
Vol.19 No.2

◆研究室から 国際家族年20周年に寄せて…………… 3

横浜国立大学教育人間科学部 工藤由貴子

◆新しい動き 多様化の時代における
ユネスコ活動の活性化についての提言…………… 24

◆DIY でうち磨き・6 ウッドデッキでビールを…………… 20

末永 京

◆エッセイ・和のある暮らし⑱ 日本にある素敵なものをつたえたい…………… 21

石橋富士子

[DATA FILE] 「消費者行政の推進に関する世論調査」より…………… 2

[Key Word] 反転授業／GMP マーク／だてマスク…………… 22

[HEADLINE] スマホでやけど…………… 23

[Question & Answer] 無花粉スギ・少花粉スギ…………… 26

◆大修館書店・新教科書のご案内…………… 9

◆指導資料類・副教材のご紹介…………… 15



大修館書店

●「契約書」は、「分量が多く、内容が難しく理解しづらいもの」と認識されている

本調査は、消費者行政の推進への国民の意識を把握し、今後の施策の参考とすることを目的としたもので、おもな調査項目は、「①消費者問題と消費者が必要としている情報」「②契約書に対する考えかた」「③行政への要望」「④消費者市民社会への参加」の4項目。

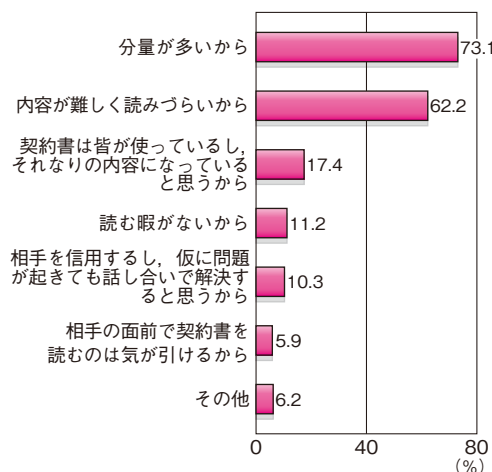
②では、「何か商品・サービスを購入・利用する際、契約書等が必要なとき、よく読むかどうか」を聞いたところ、「内容を理解するまでよく読む」割合は16.2%、「ざっと読む」40.3%、「そのときどきで違う」21.2%、「ほとんど読まない」21.2%であった。「よく読む」人の割合を年齢別にみると、20歳代では9.1%であるのに対し、70歳以上では21.7%となっており、年齢が高い方が比較的良好に読む傾向にある。また、「契約書等をよく読まないのはなぜか」については、「分量が多いから」が73.1%と最も高く、「内容が難しく読みづらいから」(62.2%)が続いた(■①)。今後はより読みやすく理解しやすい契約書の工夫も必要となるだろう。

③では、「学校の消費者教育において何を取り上げてほしいか」聞いたところ、「現実に消費者がおこなう取引で生じがちなトラブル(契約、解約、偽装表示、安全性など)への対処方法」をあげた者が61.6%と最も高かった(■②)。

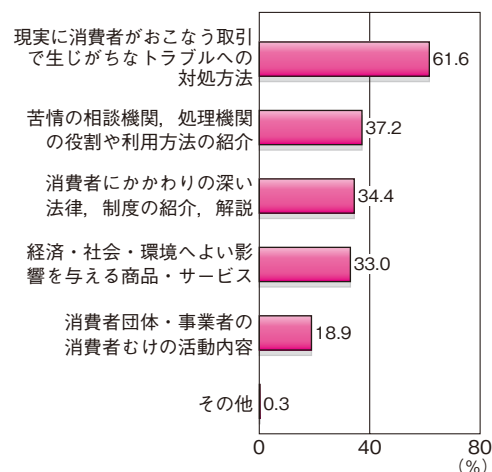
④では、「自身が商品・サービスを選択する際に、環境、被災地の復興、開発途上国の労働者の生活改善など、社会貢献につながるものを意識的に選択することがあるか」を聞いたところ、「ある」とする者が59.2%('ある'21.7%+「どちらかといえばある」37.5%)、「ない」とする者が39.5%('どちらかといえばない'21.6%+「ない」17.9%)で、6割程度の人が自身の消費行動が社会に与える影響に対する認識をもっているという結果であった。

●詳細は、内閣府 Web ページ (<http://www8.cao.go.jp/survey/h25/h25-shohisha/index.html>) で閲覧・ダウンロードできます。

■①契約書を読まない理由(複数回答)



■②学校の消費者教育への要望(複数回答)



国際家族年20周年に寄せて

横浜国立大学教育人間科学部 工藤由貴子

はじめに

今からちょうど20年前、国際家族年は、“Building the Smallest Democracy at the Heart of Society”を目標として掲げ、「社会の中心である家族から、社会全体に民主主義を広げていこう」と様々な研究・活動が展開された。“Family: resources and responsibilities in a changing world”.「家族：変わりゆく世界における資源と責任」というテーマのもとで行われた研究・活動は、変化の著しい社会において重要な役割を果たす資源として家族を位置づけると同時に、多様化する家族がその機能をじゅうぶんに発揮するために様々な支援が必要であり、その必要な資源の確保に対しては社会が責任をもつべきであることを私たちに強く認識させた。

それから20年、国際家族年20周年を記念する試みが国連を中心に展開されている。この20年の来し方を振り返りつつ、これからについて思いめぐらせている私の手もとには、国際家族年の準備に指導的な役割を果たした国際家政学会(IFHE)の当時の会長であり、世界的に著名な家政学者であったドイツのマリア・ティエーレ・ウィティヒによる「私的領域の変化とそのインターフェースそれらの社会的重要性について」と題する国際家族年を記念する論文がある(Dr. Maria Thiele-Wittig “Issues of the International Year of the Family Changes in the Private Sphere and Its Interfaces and Their Public Importance.”家政学会誌Vol.45 No.9 1994年)。当時、家族に関する議論の渦中で、家政学を専門

とする人たちが何を考えていたのか、共通的なものがそこに現れているといいえるかもしれない。

そこで、本稿では、その論文を手がかりにしながら当時の議論を振り返り、その後の20年間に家族に起きた変化を鳥瞰し、そこから示唆されるものを吟味しながら今日の家庭科教育についての一考察を試みる。それは男女共修家庭科の目指してきた・達成してきたものを振り返る作業ともいえるかもしれない。

1 「私的領域の変化とそのインターフェース それらの社会的重要性について」(1994年)

この論文は、家族とは、外部の圧力に導かれるだけのものでも環境に左右されるだけのものでもなく、自らの生活環境と将来に対する決定に際して可能な選択肢を吟味する主体であり、家族は能動的に判断し行動しうる主体として認識されるべきであり、社会に対して従属的なものとして扱われるべきではないという基本的な視点の上で書かれている。

著しい変化に伴って広範囲に起こりうる事柄から、「変わりゆくライフスタイルとジェンダーロール」、「新しい家庭と家族のかたち」、そして複雑化する生活環境が生み出している「新しい家庭内労働」という3つの点から論じている。

(1) 変わりゆくライフスタイルとジェンダーロール

1点目のライフスタイルとジェンダーロールの変化については、人々の価値観の変化、特に、親世代と若者世代の価値観の相違や世代間の断絶を述べ、特に、ジェンダーロールが大きく変化して

いるという事実を述べている。女性も男性同様に仕事と家庭の両立を望み、それが社会全体の推進力となっている。ドイツ法は男女の雇用機会均等を保障しているが、現実的にはまだ達成されていない。仕事と家庭、2つの役割は二重の負担となって女性の立場に影響を及ぼしており、多くの分野で女性は不利な状況である。しかも、家族の一人が社会に出ることによって失われた家事労働を補完しなければならないというプレッシャーが家族にのしかかっており、男性の家事負担の増加を招き、不安定な状態がまだ続いている。女性の社会進出を補完する男性の役割意識の変化は女性のそれについていっていないのが実情であり、結果的に様々な問題を引き起こしている。このことは、少子化の進展として現れている。ちなみにドイツはイタリアと並んでヨーロッパで最も出生率の低い国となっている、としている。

(2) 「新しい家庭と家族のかたち」

2点目に、当時のドイツにおける「新しい家族」の傾向が述べられている。すなわち、核家族が典型的な家族とはいえなくなってきたこと、一人暮らし世帯の割合が著しく高くなっており、世帯全体の3分の1を超えている、同様に単親家庭も増加、ほとんどの場合は母子家庭で、父子家庭もわずかながら存在している。さらに、未婚男女の同棲、事実婚、再婚、連れ子、離婚によって生まれる2つの核家族、同性カップルの同棲、複数の同居人との共同生活も増加、子どもをもうけない結婚も増えている。彼らの多くは共働きであり、家族構成員の減少、家庭労働能力の低下、生活上の困難に対する耐性の劣化といった傾向が広がり、それが社会的な課題であるとしている。

(3) 新しい家庭内労働

3点目は、複雑化する生活環境が生み出す「新しい家庭労働」についてである。家庭と家族をとりまく環境は複雑化の一途をたどっており、家族の活動範囲の拡大、家庭がもつ市場と非市場機関における多数の接点と交流の高まりに伴い、家族あるいは世帯は、社会における様々な機関とたくさんのインターフェースをもつようになり、社会

の他の部分に対するカウンターパートとしての機能をもつことになる。家族がインターフェースをもつ環境は従来の衣食住といった対象から広がり、地域環境や生活関連制度まで及んでいる。

伝統的な家庭内労働が変わりゆく今、家庭がこのような様々な社会システムと望ましい関係を形成することが重要であり、そのためには家庭内でももっといろいろな種類の労働を行っていくことが求められる。複雑化する生活環境が生み出しているこれらの新しいかたちの家庭内労働：New Household Workを発見すること、それを家庭科教育の中で確かな知識として次世代に伝えていくこと、日常生活を正しく営む能力を身につけさせること、この教育こそが家政学の真髄であると述べている。

さて、ここで述べられている「新しい」現象は、今の私たちからみると、懐かしい風景のようにも思える。今の私たちの前に拓けている新しい現象は、ここに述べられたものと比べようもなく「新しい」。20年たった今、社会はより複雑になり、私的な領域と社会とが行う相互作用もさらに複雑になってきている。

しかし一方で、私たちが想定してきたものをはるかに超えた現実の中にあっても、相変わずその懐かしい風景のなかにいる自分をも発見し、私自身は、この20年前の彼女の言葉をじゅうぶんに聞いてきたのだろうか、と自問もする。次に、この20年間の家族やそこに住む人の生活はどう変化したのか、跡を追ってみながら、この答えを探すことにしよう。

2 家族1994～2014

この20年間、家族をめぐるいろいろなことが起こった。1994年の家族年の際にも家族の多様化は大前提であったし、多様化する家族、個人の生活がそれぞれいかに豊かに営まれるか、そのために何をしていくべきか、ということが問われた。しかし、その議論の前提には多様化してはいるが個人の生活を支えるものとしての「家族」が存在していた。そこでの議論は、多様化する家族、

ジェンダーの再構築、それぞれの自立とそれを支える共生を中心課題とし、家事の公平な分担、両性による子育て等について熱心な議論が展開されていた。

しかし、20周年を記念する今日の議論においては、その「家族」の存在を前提にできないほど家族をめぐる状況は変化している。

(1) 1994-2014 家族の変化

■[1]、■[2]に、この間の変化をみていく指標となる数値のいくつかを示した。単独世帯が増加している。その中身を詳しくみると、高齢単身者だけではなく、中年単身者や親と同居する未婚中年者が増加している。未婚のまま親や配偶者の介護を担う確率は、女性にとっても男性にとっても高い。生涯未婚率の増加も著しい。特に男性は5人に1人が50歳時までに一度も結婚していない。人生が長くなる一方で生涯の中で一人暮らしをする確率も高い。

就業者に占める非正規雇用の割合も増加している。日本のような非正規雇用の待遇を前提とする

と、そのような働き方は一家の稼ぎ手役割を果たす基盤の喪失を意味する。いまだに日本社会では結婚後の経済生活は男性が担うという意識が強く、ホンネでは女性は結婚相手に経済力を求めているという期待のある中で、安定した収入を得る若年男性は減少しており、多くの男性はそれを引き受けられる状況にない。結婚までの道のりは長く家族形成さえままならない。

(2) 今日における「家族」の意味

では、個人のライフコースの中で家族をもたない時間が増えていること、あるいは、そもそも個人の人生において家族があることが自明ではないという、このような変化は、人生を生きていくときに、「家族」の重要性は少なくなっていることを意味するのだろうか。家族という生活を保障する器をもたない個人は、それに替わる装置をもたないまま社会に向き合うのだろうか。私にはそうは思えない。

現在のように家族をめぐる状況が大きく変化を遂げている中で浮かび上がってくるのは、個人の生活を保障する生活の基盤の重要性である。一人暮らし、頻繁に行われる仕事の場所の移動、人間関係の変化……そのような状況が、生活の基本

■[1] 家族の変化の指標

		国際家族年1994～					推計
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
15歳未満人口割合 (%)		18.2	16.0	14.6	13.8	13.1	12.7
65歳以上人口割合 (%)		12.1	14.6	17.4	20.2	23.0	26.1
社会の平均年齢 (歳)		37.6	39.6	41.4	43.3	45.0	46.2
30歳前半未婚率 (%)	女	13.9	19.7	26.6	32.0	34.5	—
	男	32.8	37.5	42.9	47.1	47.3	—
生涯未婚率 (%)	女	4.3	5.1	5.8	7.3	10.6	—
	男	5.6	9.0	12.6	16.0	20.1	—
一般世帯に占める核家族世帯の割合 (%)		59.5	58.7	58.4	57.9	56.3	55.9
一般世帯に占める単独世帯の割合 (%)		23.1	25.6	27.6	29.5	32.4	32.7
一般世帯に占める単親世帯の割合 (%)		6.7	7.1	7.7	8.4	8.7	9.5
親の離婚を経験する子どもの数(人)		157,608	199,016	264,246	261,917	251,378	—
非正規労働者割合 (%)	女	38.1	39.1	46.7	53.4	53.8	—
	男	8.8	8.9	11.7	17.8	18.9	—
配偶者のいない子と同居の65歳以上 (%)		17.8	18.9	19.7	21.6	24.8	—

■[2] 年齢別単独世帯率

	年齢	国際家族年1994～				
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
総数	20-24	22.0	21.8	23.2	23.6	24.5
	25-29	15.9	17.3	17.7	19.5	21.8
	30-34	8.6	10.6	12.7	13.8	15.1
	35-39	6.2	7.3	9.3	11.3	12.5
	40-44	5.6	6.8	7.8	9.8	11.9
	45-49	5.7	7.2	8.2	9.3	11.6
男性	20-24	28.8	27.4	27.5	27.3	28.0
	25-29	23.3	24.2	23.3	24.1	26.4
	30-34	12.7	15.3	17.4	17.9	18.9
	35-39	9.2	10.6	13.1	15.3	16.2
	40-44	7.9	10.1	11.2	13.6	15.9
	45-49	7.4	9.9	11.7	13.0	15.6
女性	20-24	15.0	16.0	18.6	19.8	21.0
	25-29	8.3	10.3	12.0	14.7	17.1
	30-34	4.3	5.9	7.9	9.6	11.2
	35-39	3.2	3.9	5.5	7.3	8.6
	40-44	3.2	3.6	4.2	5.9	7.8
	45-49	4.1	4.4	4.7	5.6	7.6

注) ■[1]、■[2]ともに、「国勢調査」、「人口動態統計」、「国民生活基礎調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」等により著者作成

的ニーズである、社会のメンバーとしての認知、コミュニティの構成員としての資格が中途半端にしか与えられない孤立や孤独な状態を生み出すことなく、自分がどこかに帰属しているという、人間にとって本質的な感覚を回復するための基地が必要であり、それを一人ひとりの生活のまわりに築くことは、社会全体においてきわめて重要な課題だといえる。

家庭科にも、家族の多様化と暮らしの不安定化という変化を踏まえて、どのような境遇に置かれようとも人々が自分自身の生活基盤を確保し、そのQOLを高め生き抜いていくための教育としての使命がある。

働き方の多様化に伴い職の移動を繰り返す人の増加、定年退職後の高齢者、また、若者の居場所のなさも大きな社会問題になっている。仕事や経済に恵まれない人の間で特に家族崩壊が進んでいる。さらに、国際化、情報化の進展の中で、生活環境は広がり、それに対応するための知識・技術が追いつかない状況がある。家庭・地域における相互扶助や企業・行政からの情報・サービスは不じゅうぶんである。そのような状況の中で、中・長期の展望がないまま、その場しのぎの対応をし、対症療法的な生活を繰り返している人が少なくない。計画的な生活費・生活時間の管理ができない人も多くなっている。

このような状況にある人たちの生活が内向きに閉じてしまわないように、生活を営んでいくことに自信も興味も失ってしまわないように、個人の生活を保障する生活の基盤を一人ひとりの生活のまわりに築かなければならないと思う。自分で生活に必要なスキルを獲得しなければ長期にわたってQOLの低い生活を続けねばならない。

そこに私は家庭科でやりたいこと見出す。人が「できること」で評価され、完成品・優れた機能が求められるという傾向がますます強くなる今日、創り上げるプロセスを楽しみ、上達する喜びを味わい、失敗・試行錯誤を繰り返すことが許される場を確保し、QOLを高め生き抜いていくためのスキルの教育である。

3 家庭科1994～2014

さて、ここからが本題である。この間の家庭科教育がどうであったか、本題ではあるが客観的裏づけのある論ではなく、この間家庭科教育に携わってきた一人としての考えを述べるに留まることをお断りし、初めにお詫びしておきたい。

国際家族年の1994年、この年は家庭科にとっても画期的な年として記憶される。1989年告示の学習指導要領において小学校から高等学校までの男女共通必修家庭科のカリキュラムが示され、数年の移行期間を経て男女共通必修家庭科が全面实施された年である。戦後の教育改革の中で、民主的な家庭生活について男女で学ぶ教科として誕生した家庭科が、その後、小学校以外では女子のみ学ぶ教科へと傾斜していき、それからの半世紀を要して再び男女必修が実現した年である。

ここからの家庭科は、男女が互いに尊重しつつ責任を分かち合い性別にとらわれずに個性と能力をじゅうぶんに発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、歯止めのかからない少子化、高齢化の進展に鑑み、子どもを安心して生み育てることのできる環境を整備し、生命を尊び、豊かで安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、更には持続可能な社会、高齢者の福祉、消費者の安全確保、食育等々、多くの社会的課題に向かって役割を果たす教科として社会の期待を担ってきた。

(1) ここまでの家庭科の動き

戦後から今日までの家庭科の動きを鳥瞰してみると、人類の福祉の追及、充実した人間の生活・家庭生活の実現を目指すという目標は時代のいかにかわらず大きな変化はない。

一方で、その不易の目標を達成しようとするときの方法・手段、必要な知識・技術は大きく時代の影響を受けている。それぞれの時代における豊かな生活実現のために必要な知識やスキルは大きく変わった。

その変化をたどると「日常生活を送る上で必要な知識・スキル」に含まれていたものが次第に狭くなり、減少していく過程がみえる。そのような

変化を生じさせた要因として、一つには、自分や家族の欲求を満たすために必要なものをつくる時代から、それらを購入する時代、さらにはライフスタイルにふさわしいもの・サービスを選択する時代へという生活のスタイルの変遷が一因であることが理解される。二つ目は、「家庭」が変化したことによる。サラリーマン世帯が増加し、核家族化し、生産を外部に譲り、消費の場となっていく「家庭」の変化のプロセスがそのまま、家庭科の扱う内容が狭くなっていくことに反映されている。その間の変化は男女共修から女子のみ必修へと変化した家庭科の内容の変遷をたどると明らかであるように思われる。

そういう時代を経て、再び、男女共修の時代、家庭科の扱う範囲が家庭内からより広く社会へと広がってくる。その広がりとは、社会の変化を取り込んで家庭科の中で家庭科として何を、いかに行うか、という家庭科の内容の充実という方向というよりはむしろ、生活の広がりとともに家庭科では広く社会的なものも扱うようになった、という、家庭科が拡散していく方向性をもった変化としてより強く印象づけられる。

(2) 家庭科が扱わなくなったもの

このような変化の過程で、家庭科が扱うようになったものは明らかなで、それについてはこれまで多くの研究がなされてきたと思う。一言でいえば、家庭科が社会に向かってエクステンションしていく方向性において浮かび上がった課題ということになる。

一方で私自身は、家庭科が扱わなくなったものに注目する必要があるように思っている。「自分でつくる」から「購入する」という変化を受けて、被服実習は激減、製作物も単純で安易なものへと変化した。このような変化についてはみえやすいし、これまでも様々なところで指摘されてきた。

しかし、この間の変化はそのような習得できるスキルの量の変化に留まらない。例えば、この間、家庭科で扱ってきた子どもの保育は児童の発達へと、お年寄りとの生活は他世代の人と位置づけられる高齢者とのふれあいへと変化した。あるいは、

消費の領域では、生活する人が主体である家計管理から、社会的に自立した消費者の育成へと軸足が移されてきた。

このような変化の過程で、女性役割と結びつけられて強調されてきた固定的なジェンダー観は払拭され、性差や自分の子ども・自分の家族の中のお年寄りかどうかのこだわりを超えて、世代の連続性、命の連続性、それへの支援という新しい視点が加わったことの意義は疑いようもない。社会的な仕組みを理解して、困ったときには助けを求め、適切に行動できる人が育っていくことの意義に微塵の疑問もない。

しかし私には少々の懸念がある。母親を強調せず、女性を強調せず、誰がやってもよい、そのことが、誰も熱心にやらなくなったことを意味しては困る。個の社会的自立が目指される過程で、普通の生活を送るために必要なスキルの習得機会が少なくなり、生活上の少しのバリアにつまずき、立ち上がれない人が増えるのは困る。

家庭科の学びは、家庭と社会を対比させ、脱家族化、家族か市場のサービスかという二者択一ではなく、生活の仕方そのものの新しいありようを模索する質の変化を伴うものである。そこでは、家族のあるなしにかかわらず「普通の生活」が社会的につくられていくことが目指されるはずである。家族が世話しても 社会的サービスを使ってもいい、どちらにしても同じ価値で、選択の問題でどちらにも不利益にならないというあり方が目指されるはずであるのに、家族でないとダメ、あるいは社会の問題としてしまうか、どちらかになってしまっている現状に対して、家庭科の教育はそこを変えていくことだとはいえないだろうか。

消費者の社会的自立が目指される過程で、普通の生活を送るために必要なスキルの習得機会が少なくなって、異常が起こった時の対処により焦点が移されている。すなわち、衣・食・住・消費者・家族・子ども・高齢者すべてにおいて、「平常」とはどういう状態か、を学ぶ機会の喪失というようなものとして現れている。予防科学としての、そして、普通の生活を豊かにするための家庭科とい

う教科の特徴がもっと発揮されるべきではないだろうか。もう一度、家庭科の発展の中で、扱われなくなったものの中から、それを見出してみたいと思う。

(3) 私的領域 社会とのインターフェース その意味の両義性

現代社会においては、生活が社会化の一途をたどり、個人に関わることで、福祉・医療・環境などとの関係性抜きには考えられないことが増えた。一方で、これまで個人的なものとしてきたケア、生殖、DV、身体といった生／生命に関わる領域が公共のものとして議論されるというように、生活が社会化するインターフェースの部分は、双方向の動きとして捉えられる。

これまで家庭科が、家族の機能が外に出ていくという生活の社会化の一方向に焦点を合わせてやってきたとしたら、今後は同じような力を、個々人が豊かに生きていくときに必要なもの、生活の実態と課題を企業、行政等社会のセクターに正確に把握させ、それを共有していくことに注力すべきだと思う。家庭科の教育は、インターフェースの部分から越境し、生活の側から社会に働きかけ、より積極的に参画し社会を変えていく教育だと思う。

おわりに

国際家族年の20周年を特別な時と捉えて、あれこれ考えていることを述べた。今の私はこのような混沌とした思考の中にあり、新しい時代に求められる生活スキルとはどういうものなのか、具体像を提案するに至っていない。

「複雑化する生活環境が生み出しているこれらの新しいかたちの家庭内労働：New Household Workを発見すること、それを家庭科教育の中で確かな知識として次世代に伝えていくこと、日常生活を正しく営む能力を身につけさせること、この教育こそが家政学の真髄である」という先の論文でのマリア・ティエーレ・ウィティヒ氏の提言が再び思い起こされる。20年後のこの新しい時代のNew Household Workは、彼女が思ってい

たよりもっと積極的にインターフェースの部分から越境し、生活の側から社会に働きかけていくもの、あるいは、生活をマネジメントすることから、生活をディベロップメントすることへと変わっていくかもしれない。いずれにしろ、できるだけ早く、この新しい社会において、日常をつくる新しいスキルを、青年にも男性にも老人にも伝えていきたいと思う。

国際家族年のシンボルマーク(■3)は、愛情で結ばれた家族構成員とその生活が、大きな屋根のもとで保護されている様子が描かれている。家族をあらわすハートは屋根で保護され、大きいハートは小さいハートで繋がり、愛情で結ばれる家族員の家庭生活があらわされている。さて、これから私たちはどんなシンボルマークを描いていこうか。個と社会とが共振しつつ連続し未来へ向かっていく方向性を示せたらよいと思う。

■3 国際家族年20周年のシンボルマーク



新教科書 のご案内

2013(平成 25)年 4 月施行
新学習指導要領準拠・文部科学省検定済

家庭総合 [家総 305]
豊かな生活をともにつくる

家庭基礎 [家基 308]
豊かな生活をともにつくる

[家庭 309]
未来を拓く **高校家庭基礎**

大切に思うこと、育てたい力

1 生活観の確立ができるように

毎日の生活の営みのなかで起こる変化や問題によって、人生は小さく、ときに大きく変わっていくものです。高校生が高校生という時期に、将来の自分を想像しながら生活について学び、自分なりの生活観を確立できることは、人生のさまざまなできごとを力強く乗り越えていく強さにつながると考えます。

2 自立や共生ができるように

男女が協力して家庭や社会を築くこと、世代や国籍、障がいの有無を超えて共生すること、環境に配慮した生活を営むことなど、生活者として自立や共生ができる能力を育てたいと考えます。

3 課題をみつけ、解決できるように

教科書に収録された課題、実習や実験、体験的な学習を通して、生活の課題を積極的に改善・充実できる知識や技術を身につけ、その問題解決能力を、家庭、学校、地域、社会でぜひ発揮してもらいたいと考えます。

編集の基本方針

1 基礎基本が確実に習得できるように

国際化、情報化、少子高齢化、価値観の多様化といった、すべてが刻々と変化する現代に生きる高校生にとって、健康で文化的な生活を築いていくために必要な基礎的・基本的な知識や技術とは何か。この問いをつねに繰り返しながら、家庭科が対象とする幅広い学習内容から基礎・基本事項を精選しています。

2 興味関心をもって学べるように

生徒自身が興味関心をもって学べるよう、本文記述を補足説明する側注、学習の理解に役立つ適切な図表、コラムや課題をもうけて、自分の考えを広げたり発展させたりしながら、より深く学習できる工夫をしています。

3 学習効果が高まるように

オールカラーの美しい配色、視線の混乱が少ないレイアウト、豊富なイラストや写真で、学習効果がさらに高まるようにしています。

家庭総合 家庭基礎 紙面見本

[家総 305]
豊かな生活をともにつくる

[家基 308]
豊かな生活をともにつくる

縮小倍率 59 %

家庭総合 p.56 ~ 57
家庭基礎 p.44 ~ 45

point 1

見開きもしくは1ページで学習内容をまとめています。学習内容の区切りがつけやすく、授業計画が立案しやすくなっています。

point 2

記述は、生徒の日常生活に身近な話題をきっかけに、重要なことからおさえつつ学習を徐々に深めていける展開にしています。

point 3

図表やコラム、側注などの補助教材は、スペースの許すかぎり、数多く収録しています。教科書1冊でも毎日の授業に対応できます。

point 4

図表に配置しているイラストは、高校生が親しみやすいものを選びました。色づかいも鮮やかに、学習の理解を促します。

* 呼びかけ *

これから学習すること、今、学習していることが、自分の生活に深く関係していることをつねに意識できるように、タイトルは「呼びかけ型」にしました。また、本文も「私は～」 「あなたは～」と、呼びかけや問いかけを随所に織り交ぜています。

* 体験的学習の充実 *

実験・実習課題の「Practice」、ミニ課題「try & hint」、そして章末課題「学習を生活にいかそう」に取り組むことで、学習が生活と関係しているという実感がもてます。実践的な学習はもちろん、小論文などの課題にも最適です。

1 高齢者の生活をみつめよう

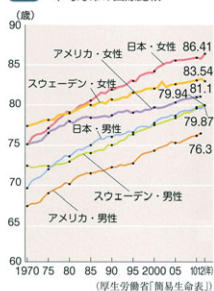
高齢期に生じる生活課題は何だろうか。高齢期を充実させるためには、どのようにしたらよいだろうか。そして、まわりの高齢者と、どのようにかわっていったらよいかを考えてみよう。

1

生涯発達と高齢期

※① 高齢者 社会的には65歳以上の人を高齢者という。さらに、65～74歳を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と区分する。

① 平均寿命の国際比較



1 高齢期という時期

2065年ごろには、今は高校生のあなたも**高齢者**と呼ばれる年齢になり、**高齢期**(老年期)を迎える。私たちは、ある日突然に高齢者になるのではない。日々の生活が、連続し、積み重なって生涯発達の完成期として高齢期を迎える。高齢期は、それまでの生活の統合の時期であると同時に、新しい生活の形をつくり出す時期でもある。平均寿命の延びとともに、高齢期は20年近くにもわたる長い時間となっている。それは、やり残したこと、次なる目標に挑戦するのにじゅうぶんな時間である。

2 私たちと高齢者

私たちは高齢者を「支援の必要な人」と思ったり、高齢期を「何かを失う時期」と思い込んではいないだろうか。

身近な高齢者を思い浮かべてみよう。人生で培ってきた思慮深さや寛容さ、経験や技術をいかして活躍する高齢者は本当に多く、そのために、私たちは育てられ、助けられてもいる。私たちは、充実した生活を送る高齢者からさまざまなことを学ぶとともに、高齢期の課題とその解決方法を考えていこう。

FOLLOW UP エイジズム

エイジズムとは、高齢期の心身の機能低下への無理解や蔑視、高齢者の能力が現代社会には通用しない、などの一方的評価による高齢者差別のことをいう。それは、就労機会の制約、高齢者に配慮のない生活環境、医療・年金・介護などの社会制度の貧困などにあらわれる。

2 高齢期を生きる



現在、世界的に活躍している高齢者や歴史上に名を残した高齢者にはどのような人があるか名前を挙げてみよう。

hint! その高齢者がどのような人生を送ってきたかを調べてみよう。



資料の豊富さは
トップクラス!!

2

高齢期の心身の特徴と生活

※① このほか、体温調節機能が低下して脱水症状が起こりやすい、バランス調整力が低下して転倒しやすい、などがある。特に、夏の高温・高湿度下では熱中症にかかり、命を落とす危険がある。

※② **結晶性知能** 人間の知能は、結晶性知能と流動性知能に分けられる。結晶性知能は、技術や経験をもとにものごとを解決する能力、流動性知能は、記憶力や判断力、計算など、瞬時にもものごとを判断する能力である。

※③ **健康寿命** 日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと。WHOが2000年に公表したことで、平均寿命から自立した生活ができない期間を引いた年数が健康寿命になる。2000年のWHOの報告書では、日本人の健康寿命は男性72.3歳、女性77.7歳で世界第1位であるが、平均寿命と比べるとやや短い。健康寿命をいかに平均寿命に近づけるかが、これからの高齢社会の課題である。

1 体の変化・心の変化

私たちの心身は、加齢とともにその形態や機能が変化する。

個人差はあるが、75歳以上になるとその変化が大きくあらわれる場合が多い。たとえば、視力や聴力、筋力や骨の強度、免疫力、記憶力や瞬時の判断力、環境の変化への適応力といった機能が低下してくる。そうした心身の変化をうまく受け入れられずに自信を失ったり、孤独感をもってしまうこともある。

一方で、結晶性知能は加齢による低下があまりみられず、自立した生活で主体的に問題を解決したり、積極的な社会活動を続けることで、それはさらに高度な能力(知恵)になっていく。人生の成熟期に知恵をいかして活躍する高齢者はたいへん多い。

2 心身の変化への対応

加齢にともなう心身の変化はだれにでも生じる。そこには、

若いときからのライフスタイルが大きく影響し、始まる時期や生じる部位、速度には大きな個人差がある。高齢者にとって心身の健康維持は大きな課題である。定期的な健康診断、バランスのとれた食事、体力に応じた運動の継続、趣味や社会参加の機会をもつことによって健康寿命を延ばす努力が大切である。

側注

学習の理解に役立つよう、用語解説や補足説明をていねいに詳しく掲載しました。

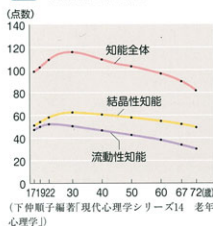
* FOLLOW UP *

読みものを中心に本文と関連の深いトピックスを集めた「FOLLOW UP」は、生徒の興味関心をさらに広げます。

豊富な資料

教科書1冊で、一通りの学習ができるよう、授業でよく使われている資料を中心に満載しました。グラフは、可能な限り数値を掲載してありますので、的確に傾向を読み取ることができます。

3 高齢者の知的能力



4 知恵

理解力、洞察力、ものごとの判断力、調整能力、コミュニケーション能力、アドバース、他者理解、自己理解、内省力

FOLLOW UP

介護の必要高齢者の割合

あなたは、介護の必要高齢者がどのくらいいるか知っているだろうか。65歳以上の高齢者のうち、介護保険制度(→p63)で、生活に支援や介護が必要と認定された高齢者は約17%である。75歳以上(後期高齢者)になると、たしかに支援や介護の必要高齢者は増えてくるが、それでも7割の高齢者は健康に留意しながら、自立して生活している。

5 介護の必要高齢者の割合(2011年)

	65歳以上	65~74歳 (前期高齢者)	75歳以上 (後期高齢者)
合 計	17.3(%)	4.3(%)	30.5(%)
要支援Ⅰ	2.3	0.6	4.0
要支援Ⅱ	2.3	0.7	4.0
要介護Ⅰ	3.2	0.8	5.6
要介護Ⅱ	3.1	0.8	5.4
要介護Ⅲ	2.3	0.5	4.2
要介護Ⅳ	2.2	0.5	3.9
要介護Ⅴ	2.0	0.5	3.5

(厚生労働省「介護保険事業状況報告」2013年)
▲各年齢層の被保険者数を100として算出。

未来を拓く 高校家庭基礎 紙面見本

[家基 309]

縮小倍率 59 %

p.150 ~ 151

point 1

見開き（1 title）＝ 1 時間（1 unit）。1 時間の授業内容を見開きで展開。授業計画の立てやすさ、学習の効率のよさが際立ちます。

point 2

「基礎・基本を確実に」。かぎられた時間内で家庭科全分野が学習できるように配慮しました。

point 3

実習課題「Try & Hint」に取り組むことで、学習していることと生活とが深くかかわっていることを直感的に理解できます。

point 4

図表は、重要資料を厳選して収録しています。巻末「資料編」の資料と合わせれば、[家基 308] に匹敵する資料数です。

* 基礎・基本を確実に *

基礎・基本を確実に身につける。これを第一に考えました。学んで欲しいこと、身につけて欲しいことを精選し、見開き＝1 時間にまとめて展開しています。ページ上には毎時間の学習内容をイメージしたイラストを配し、読みやすい文字、イラストや写真で構成した図表など、親しみやすい紙面づくりを心がけました。

* 実践的な学習を充実 *

見開きに一つ登場するミニ課題「ワーク」と章末課題「学習を生活にいかそう」に取り組むことで、学習が生活と関係しているという実感があります。実践的な学習はもちろん、小論文などの課題にも最適です。

1

生活が環境に及ぼしている影響を考える

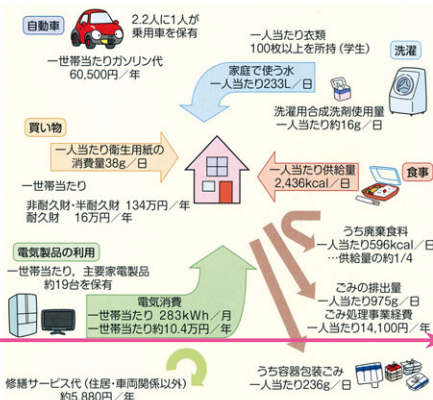
1 私たちの生活と環境問題

今あなたは、毎日の生活でどのくらいの量の電気やガス、水を使用しているだろうか。

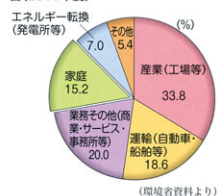
私たちの生活は、自然を基盤として成り立っている。私たちは、便利で快適な生活や経済的に豊かな生活をめざすあまり、大量の資源やエネルギーを用いて大量生産されたものを大量消費してきた。その結果、容器包装や食べ残し、使わなくなったものなどのごみ、調理・洗濯・入浴・水洗トイレなどからの生活雑排水などの大量廃棄の問題、かぎりある資源・エネルギーの枯渇、大気汚染や温暖化のような気候変動など、環境に大きな負荷を与えている。

近年では、海外から輸入される原材料や製品も少なくない。海・空は全世界につながっている。私たち一人ひとりのライフスタイルの選択、一つひとつの具体的な行動が、身近な環境だけでなく地球規模の環境に

① 日常生活における環境負荷の例



② 部門別二酸化炭素排出量の割合 (2011年度)



ワーク

Try あなたの住む地域のごみ事情を調べてみよう。現在とこの10年間の変化を調べて比較してみよう。

Hint ■ ごみの量・内容・処理方法・処理費用 (税金からの支出) の現状がどうなっているか。自治体の広報資料等を参考にしてみよう。

[注] 2010～2012年の統計より試算。衛生用紙：ティッシュペーパーやトイレットペーパーなど。非耐久財：食料などの消耗品。半耐久財：衣類など耐用年数の短いもの。耐久財：家電製品など耐用年数の長いもの。
(環境省「環境白書」、総務省「家計調査年報」などより)



授業計画が 立てやすい, 見開き = 1 時間

- 学習のねらい
- ▼現在の消費生活が環境に与えている影響を理解しよう。
 - ▼社会の変遷と環境とのかわりについて考えよう。
 - ▼自分自身の生活を地球環境とのかわりからとらえ直し、環境に調和したライフスタイルを実践しよう。



環境

も影響を及ぼしているのである。

2 循環型社会・低炭素社会を実現するライフスタイル

自分自身の生活が、どのくらい環境負荷を与えているか考えたことがあるだろうか。一般廃棄物や水質汚染物質、地球温暖化のおもな要因といわれている二酸化炭素排出などの発生源として、家庭の占める割合は少ない。

かぎりある資源を有効に用いるためには、資源を循環させることが不可欠である。「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の生活を見直し、新たな資源の投入を抑え、廃棄物なるべく少なくなる「循環型社会」の構築が求められている。

二酸化炭素排出の少ない低炭素社会を実現するには、エネルギー消費量の削減が必要である。まずは今の生活を点検し、エコライフをめざして具体的に取り組んでみよう。

※① 一般廃棄物に占める生活部門(家庭)からの割合は71%(2009年度)。水質汚染物質では53%(2009年度)となっている(環境省「環境統計集」2012年)。

※② エコライフ エコロジカル(環境に調和した)ライフスタイル(生活様式)のこと。

* 図表の読み取りも確実に *

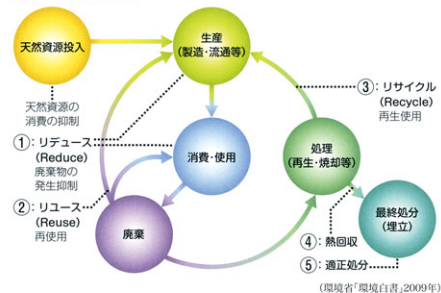
図表にイラストを配置したり、フローチャートで視覚的な理解が得やすいように工夫しています。

また、図や表からどのようなことが読み取れるのか、「スターくん」がやさしく、ていねいに解説します。

* コラム *

読みものを中心に本文と関連の深いトピックスを集めた「コラム」は、生徒の興味関心をさらに広げます。

3 循環型社会の姿



図の①～⑤は、私たちがとるべき行動の優先順位で、循環型社会の基本枠組みを定めた循環型社会形成推進基本法(2000年制定)に明記されています。①の前に「ごみになるものは断る(リフュース: Refuse)」ことが、さらに廃棄物の発生抑制につながります。リデュース、リユース、リサイクルを3Rと呼び、リフュースを加えて4R、リペア(Repair: 直す)を加えて5Rとすることもあります。



コラム

MOTTAINAI

ものは多様な資源から作り出されている。「もったいない」は、ものや資源をできるかぎり有効に活用しよう、という気持ちから発せられることば。「持続可能な開発と民主主義・平和への貢献」からノーベル賞を受賞(2004年)した前ケニア環境副大臣のワンガリ・マタイさんにより、日本の「もったいない」精神にもとづいた生活が、価値あるライフスタイルとして再発見され、「MOTTAINAI」ということばで海外にも紹介されている。あなたのまわりの「もったいない」精神にもとづいた生活の例にはどのようなものがあるか、考えてみよう。

Cooking

調理実習

家庭総合……………家総 305

● 日本料理の献立

さつまいもご飯、麩とみつばのすまし汁、ぶりの鍋照り焼き、青菜のごま和え

● 西洋料理の献立

若鶏のソテー・トマトソース、コーンクリームスープ、ツナビーンズサラダ

● 中国料理の献立

炒飯（焼きめし）、番茄木耳湯（トマトときくらげのスープ）、青椒肉絲（ピーマンと肉のせん切り炒め）、杏仁豆腐（牛乳かん）

● 正月料理三種

だて巻き、煮しめ、紅白なます

● デザート三種

プリンアラモード、チョコバナナマフィン、どら焼き

● 軽食の献立 I

親子どんぶり、野菜の浅づけ

● 軽食の献立 II

ペーコンクリームパスタ、ガーデンサラダ

● お弁当

おにぎり、鶏のから揚げ風、厚焼き卵

● 環境に配慮した調理

ドライカレー、イタリアン卵スープ



家庭基礎……………家基 308

高校家庭基礎……………家基 309

● 日本料理の献立

ご飯、わかめととうふのすまし汁、肉じゃが、きゅうりとしらすの酢のもの

● 西洋料理の献立

めかじきのハーブパン粉焼き、コンソメジュリエース、ブランマンジェ

● 行事食の献立

ちらしずし、茶わん蒸し

● デザート三種

フルーツあんみつ、チョコバナナマフィン、どら焼き

● 環境に配慮した調理

レタスチャーハン、ゆで鶏とザーサイのサラダ、ジンジャースープ

● 軽食の献立 I

親子どんぶり、野菜の浅づけ

● 軽食の献立 II

ペーコンクリームパスタ、ガーデンサラダ



Sowing

被服実習

● ハーフパンツ

スリットの入ったパンツ

● ベスト

えりつけ、パイアステープ処理の入った本格派ベスト

● ペットボトルカバー

小物ですが、被服製作が一通り学べるおすすめの題材



小社の家庭科教科書は、毎年可能なかぎり、法律や制度の改正、社会状況の変化等を反映した記述等の変更、統計資料のデータ更新をおこなっております。鮮度が命の家庭科。いつも最新の状態でお使いいただけるようにしています。

指導資料類・ 副教材のご紹介

教科書を
フォローアップ!
毎日のご授業を
バックアップ!!

現行版同様、充実の**指導資料**と
副教材を揃えています。

* 3冊の教科書とも同じ商品構成です。詳しくは、各教科書ごとの「教科書・指導資料・副教材パンフレット」をご覧ください。

家庭総合

豊かな生活をともにつくる

家総 305

- ① 教授用指導資料・授業展開編
【体裁】B5判2色刷 各冊40～144頁
- ② 教授用指導資料・教科書解説編
【体裁】B5判2色刷 224頁
- ③ 教授用参考資料
【体裁】B5判1色刷 224頁
- ④ 評価問題例集
冊子：【体裁】B4判1色刷 112頁
CD-ROM：1枚・Windowsのみ
- ⑤ 学習ノート
生徒用：【体裁】B5判1色刷 144頁／【定価】本体540円＋税
教師用：【体裁】B5判2色刷 144頁



家庭基礎

豊かな生活をともにつくる

家基 308

- ① 教授用指導資料・授業展開編
【体裁】B5判2色刷 各冊40～104頁
- ② 教授用指導資料・教科書解説編
【体裁】B5判2色刷 176頁
- ③ 教授用参考資料
【体裁】B5判1色刷 192頁
- ④ 評価問題例集
冊子：【体裁】B4判1色刷 96頁
CD-ROM：1枚・Windowsのみ
- ⑤ 学習ノート
生徒用：【体裁】B5判1色刷 112頁／【定価】本体540円＋税
教師用：【体裁】B5判2色刷 112頁



未来を拓く 高校家庭基礎

家基 309

- ① 教授用指導資料・授業展開編
【体裁】B5判2色刷 各冊40～104頁
- ② 教授用指導資料・教科書解説編
【体裁】B5判2色刷 168頁
- ③ 教授用参考資料
【体裁】B5判1色刷 192頁
- ④ 評価問題例集
冊子：【体裁】B4判1色刷 96頁
CD-ROM：1枚・Windowsのみ
- ⑤ 授業ノート
生徒用：【体裁】B5判1色刷 160頁／【定価】本体540円＋税
教師用：【体裁】B5判2色刷 160頁



学習ノート・授業ノート

教科書準拠の学習ノート。自学自習・理解度チェック・まとめに最適。解答として教師用をご用意。

2 家族・家庭をみつめよう

教科書 p.16~19

1 現代の家族・家庭 ①

1 基本 家族について、以下の問いに答えよう。

(1) 次の () に当てはまる語句を記入しよう。

家族とは、「(①) 」という一組の男女を中心として、その近親の血縁者が (②))
をともに生活している小集団」と一般に考えられてきた。しかし家族は、時代により、社会により、
そのありかたや中心となる (③)) の結びつきが、いっしょに住む人の構成などが (④))
していくものである。近年では、核家族^a、直系家族^bといった家族構成のほか、(⑤))
や (⑥)) の関係で (⑦)) を別に行っているなどの住まいかた、事実婚や養親・養子関
係などのように (⑧)) や (⑨)) はないが (⑩)) や (⑪))
をともにしている関係といった結びつきが、家族の形やありようはさまざまである。
最近の日本の家族の動向をみる場合、統計上は「住居と生計をともにしている集団」である
(⑫)) によって把握することが多い。

(2) 下線部a,b,cのごとばについてそれぞれ簡潔に説明してみよう。

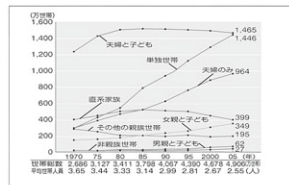
- a. 核家族
()
()
b. 直系家族
()
()
c. 事実婚
()
()

(3) 核家族に祖父母・おじ・おばなどの他の親族が加わった家族は何と呼ばれるだろうか。
()

2 応用 多様な家族としての結びつきかたや住まいかたの例をイラストで示し、その生活のようすについて創作してみよう。

イラスト	生活のようす	イラスト	生活のようす

3 基本 下のグラフは、わが国の世帯構成割合と世帯総数、平均世帯人員の推移を示している。このグラフから読み取れる家族の動向をまとめてみよう。また、そのような家族の動向の背景として考えられることをまとめてみよう。



●グラフから読み取れる家族の動向

●家族の動向の背景として考えられること

4 実践 あなたが住んでいる自治体の世帯構成割合や世帯の家族類型別世帯数を調べてみよう。どのような特徴があるだろうか。

調べた自治体 ()

※ 国勢調査の結果は、自治体のWebページなどでも見ることが出来る。

▲家庭総合 [家総 305] 学習ノート

教科書 p.74~75

4 消費者としてどう生きるか

1 次の文の () に当てはまる語句を記入してみよう。

消費者問題の未然防止や解決をめざして、日本の消費者政策は進められ、1968年に (①)) が制定され、消費者保護に関する施策の基本方向が示された。
2004年には、「保護」から「自立」支援政策への転換をめざして改正がおこなわれ、 (②)) 法と改称された。また、複数の省庁にまたがる横断的な取り組みが必要である消費者問題について、適切に対応できる消費者行政の一元化をめざし、 (③)) が新設された(2009年)。

2 製造物責任とはどのようなことか、教科書などをみてまとめてみよう。

3 次の消費者の権利と責任の表の () に当てはまる語句を記入してみよう。

8つの権利	5つの責任
○ (①)) への権利 ○ 情報を与えられる権利 ○ (②)) をする権利 ○ (③)) を受ける権利 ○ 生活の基本的ニーズが保証される権利 ○ (④)) に対する補償または賠償を受ける権利	○商品について (⑤)) をもつ責任 ○自ら (⑥)) し、公正な取引を求められるように行動する責任 ○自らの消費行動が他社、とりわけ弱者に与える影響を (⑦)) する責任 ○自らの消費行動が (⑧)) する責任 ○自らの消費行動が (⑨)) する責任

1 消費者問題に関する記事を探してみよう。そして内容を整理して分析してみよう。

切り抜いた記事を貼ってみよう

MEMO

▲家庭基礎 [家基 309] 授業ノート

評価問題例集

教科書準拠の教師用評価問題例集。評価問題例集の問題に加え、教科書本文・図表等も収録した、加工・編集に便利な CD-ROM も。

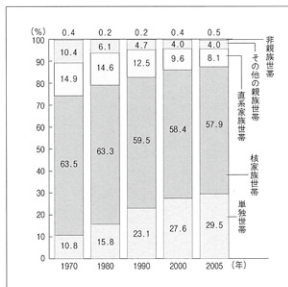
◀家庭総合【家総 305】評価問題例集

2 家族・家庭をみつめよう

教科書p.16～25

問題11 家族について、あとの問に答えなさい。

右の図は、世帯構成割合の推移である。
最近の日本の家族の動向をみる場合、統計は世帯によって、把握することが多い。



【問1】統計上使用している「世帯」について、説明しなさい。

【問2】核家族と直系家族を簡単に説明しなさい。

核家族	
直系家族	

【問3】グラフから読み取れる日本の世帯構成の推移について述べなさい。

4

教科書p.74～75

問題14 わが国の消費者政策について、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- (1) 消費者問題の未然防止や解決をめざして、日本の消費者政策は進められてきた。()
- (2) 複数の省庁にまたがる横断的な取り組みが必要である消費者問題について、適切に対応できる消費者行政の一元化をめざし、2009年に国民生活センターが設置された。()
- (3) 1968年に制定された「消費者基本法」は、2004年に改正され、名称も「消費者保護基本法」と改称された。()
- (4) 消費者基本法は、行政が消費者を権利の主体として位置づけ、その権利を行使できる制度、被害を救済する体制の充実・整備をめざすものである。()

問題15 消費者の権利と責任ある行動について、あとの問に答えなさい。

消費者の権利については、1962年、アメリカの(1)大統領が^a「消費者の4つの権利」を提示して以来、その考えが広く普及した。その後1982年、国際消費者機構は、「消費者の(2)つの権利と(3)つの責任」を提唱している。

【問1】文中の(1)～(3)に適する語句を入れなさい。

(1): (2): (3):

【問2】下線部aの「消費者の四つの権利」を答えなさい。

問題16 次の語句を説明しなさい。

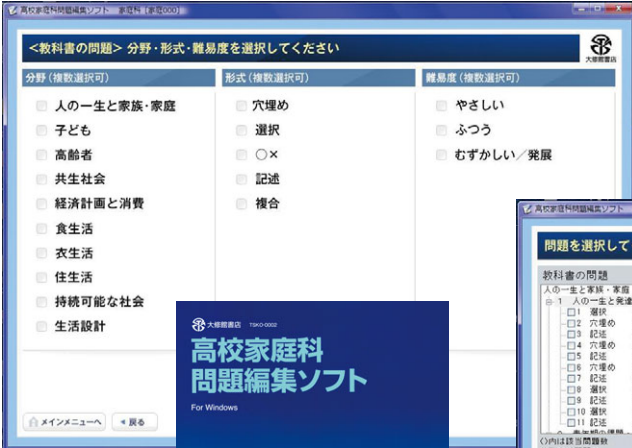
① 製造物責任法 (PL法):

② 経済的投票行動:

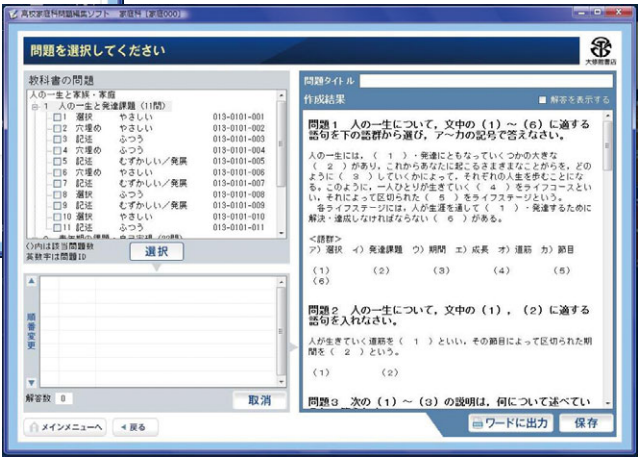
36

高校家庭科問題編集ソフト

教科書をベースに作成した問題約 1,000 問を収録。分野別、問題形式別、難易度別に絞り込んで問題を選択し、Word に読み込んで自由に編集できるソフトです。生活にかかわる豆知識問題も収録されています。中間・期末テストに、授業プリントに、幅広くお使いいただけます。



分野・形式・難易度選択画面



問題選択画面

年 組 帯

名 前

評 点

問題1 次の図を見て、あとの問1-2に答えなさい。



就業時刻と朝食の食量の関係 (2005年)

就業時刻	朝食の食量 (%)
午前 6時台	2.9
午前 7時台	1.4
午前 8時台	17.0
午前 9時台	4.4
午前 10時台	0.7
午前 11時台	2.8
午後 12時台	15.6
午後 1時台	7.5
午後 2時台	32.3
午後 3時台	34.4
午後 4時台	75.9
午後 5時台	29.2
午後 6時台	12.8
午後 7時台	1.3
午後 8時台	0.3
午後 9時台	50.6

① 朝食は毎日食べる
② 朝食は毎日食べるが、量は少ない
③ 朝食は毎日食べるが、量は多い
④ 朝食はほとんど食べない
⑤ 朝食を食べない

【問1】この図からわかることはどのようなことか、述べなさい。

【問2】子どもの就業時間が遅くならないように、親はどのようなことに心がけたいか、述べなさい。

Word での問題作成例

DIYでうち磨き・6

ウッドデッキでビールを。

末永 京

もしも私が家を建てたなら……と想像を膨らませていた頃、「お風呂上がりにウッドデッキでビールを」という夢がありました。夏の夕暮れ、お風呂で一日の疲れを洗い流し、ウッドデッキに吹く風で髪を乾かしながら、ビールで喉を潤す……。想像しただけで夏が待ち遠しくなります。そんな夢を実現させるため、マイホームを購入し1年が経った頃、小さな庭にウッドデッキを作ることになりました。

ウッドデッキを作るにあたって一番悩んだのが木材選びでした。ウッドデッキは常に太陽の光を浴び、雨風を受けるところなので慎重に選ぶ必要がありました。

ウッドデッキ材として売られている木材にはたくさんの種類がありますが、大きくソフトウッドとハードウッドの二つに分類されます。ソフトウッドは柔らかいので穴を開けたりビスを打ったりという加工がしやすいメリットがありますが、耐久性に欠けるというデメリットがあります。ハードウッドは固く加工が大変なのでDIY初心者にはハードルが高いのですが、耐久性があります。それぞれに良いところも悪いところもありますが、自分が一番譲れない条件から選ぶのが良いでしょう。とにかく安価で気軽に作りたいのならソフトウッドのSPF。木が柔らかいので初心者でも簡単に扱うことができます。ただ水に弱いので毎年防腐剤を塗るなどのメンテナンスが必要です。同じくソフトウッドのウエスタンレッドシダーも柔らかく加工しやすいです。SPFより耐久性があり、お値段も多少高くなります。ハードウッドはノーメンテナンスでも何十年も持つと言われています。サイプレス、ウリン、イペなど耐久性が上

すえなが・きょう

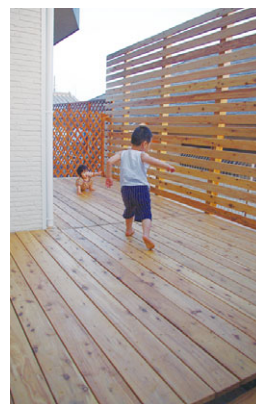
ATELIER n° 905主宰。DIY アドバイザー。自宅での木工教室を中心に、ホームセンター等で木工を教えるほか、託児つき木工教室や子どもむけワークショップも開催。著書『シェルフをつくろう はじめてのDIY』（パッチワーク通信社）が好評発売中。ブログ「ママに嬉しい木工**子供に優しい木工」
ameblo.jp/kuricoroom/

がれば上がるほどお値段も上がりますが、とにかくノーメンテナンスで長もちさせたいという方は耐久性が高いものを選ぶと良いでしょう。

わが家は検討を重ねた結果、「サイプレス」を選びました。15～30年の耐久性があることと、サイプレスの持つ節の味わい、またははじめはベージュに近い色が年月とともに徐々にシルバークレーに変わるという面白さもあったからです。

ウッドデッキ作りは夫も巻き込んで一緒に作業したのですが、意見がぶつかりケンカの連続。でも今となればそれも良い思い出です。

いざウッドデッキができてみると、日々育児に追われ、お風呂上がりに風に吹かれながらゆっくりビールを……なんて余裕はないのですが、お天気の良い休日に子どもたちとランチしたり、シャボン玉で遊んだり、プールを出したり……今しかできないウッドデッキ遊びを楽しんでいます。いつか子どもたちに手がかかなくなり、ゆっくりビールが飲めるその日まで元気でいてくれよ、ウッドデッキさん。夢の実現までにはまだまだ時間がかかりそうです。



エッセイ・和のある暮らし⑱

日本にある素敵なものをつたえたい

石橋富士子

文・イラスト／いしばしふじこ

イラストレーター。女性誌、教科書などの挿絵、イラストエッセイや手作り小物、和モノデザイン、制作など多彩に創作している。「家庭科通信」の表紙イラストも創刊時から手がけている。著書に「知識ゼロからの着物と暮らす入門」「知識ゼロからの着物と遊ぶ」(幻冬舎)、『ぺたこさんの手作り生活』(フィールドワイ)などがある。ホームページ「テーブルトーク」も更新中。<http://petaco.sakura.ne.jp/>

最近、街を歩いていると海外からの観光客が増えたことに気がつきます。

渋谷や銀座、六本木などで、地図や案内板にとらめっこしている海外からのお客様。ヨーロッパやアメリカ、東南アジアからの人たちも多くみられます。駅や百貨店の案内板も日本語、英語、中国語、韓国語などが並んでいて、「おもてなし」の国日本ここにありといった感じでしょうか。

ちょっと前までは日本の観光といえば浅草、京都、富士山が代表的な観光名所でしたが、今はもっと多様化、細分化しているように思えます。

秋葉原、DIYの品が揃うハンズ、手芸専門店のユザワヤ、大型100円ショップなど、そこでしか売られていないユニークなものを求める外国の方もたくさんいらっしゃいます。

駅の立ち食いそばの食べ歩き、渋谷の駅前スクランブルのまん中での写真撮影、カラオケ、回転寿司。混む時間帯めがけて満員電車を体験しようとする人も。

老舗と新しいもの、古いものと最新のものがごちゃごちゃと混在し、雑居ビルのように存在する日本は外国からみるとさぞ不思議で魅力的な場所だろうなあと思います。

和装と洋装も同じではないでしょうか。少し前までは両者は混ざることなく、線引きがきっちりとされていました。でも最近自分で身につけていても「着物姿が珍しい」という目立ち方はしなくなりました。「着物か洋服」という選択肢ではなく、「パンツかスカート、着物か」のように気軽に、着物が身近なものになってきたようです。

さらに着物っぽい洋服、洋服っぽい着物になり、洋服+着物のコート、着物+洋服のコートなど着物と洋服の境目がどんどん曖昧になってきています。まるで富士山の裾野のように、着物から洋服の間に無数の選択肢が存在する。

和という字には「和える、ブレンドする」という意味もあるそうです。うまく和えることができるセンスも日本の大きな魅力かもしれませんね。



Key Word

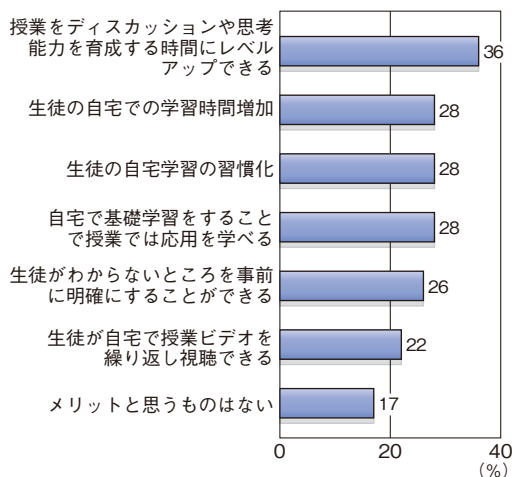
反転授業

反転授業とは、これまで授業で学習してきた基礎的な内容をタブレット端末などを使って家で学び、家で取り組んでいた応用課題に授業で取り組むように「反転」させる方法。

具体的なイメージとしては、①教員が授業の動画(説明型の講義動画)を撮影する、②その動画をタブレット端末に入れて家に持ち帰り、自宅で視聴して、宿題として予習し、基礎的な内容を学ぶ、③実際の教室の授業では、予習でわからなかった点を教え合ったり、家で学んでいた応用問題などを解いたり、議論や実習などに取り組んだりする、④さらに自宅で問題を解いたりして復習する、といったスタイルである。

2014年に高校・大学教員におこなったアンケート*によると、反転授業経験者は9.7%(おこなっている2.4%+過去におこなっていた7.3%)。「反転授業のメリット」としては、「授業をディス

■① 反転授業のメリット(複数回答)



(eラーニング戦略研究所「高校教員、大学教員に対する反転授業に関する意識調査」2014年)

カッションや思考能力を育成する時間にレベルアップできる」「生徒の自宅での学習時間増加」などがあげられている(■①)。

*アンケートの詳細は、「eラーニング戦略研究所」Webページ(http://www.digital-knowledge.co.jp/corporate/laboratory/e_report_detail/p864.html)参照。

GMP マーク

GMP マークとは、製品の一定の品質や安全性を保証するため、健康食品業界が第三者機関に委託して認証するマークである。GMP は、Good Manufacturing Practice(適正製造規範)の略で、健康食品の原材料の受け入れから製造、出荷までのすべての工程において、製品が安全につくられ、一定の基準が保たれるようにするための製造工程管理基準のことである。

健康食品、特に錠剤やカプセル状のものは、製造の過程で濃縮や混合などの作業がおこなわれるため、製品中に含まれる成分量にばらつきが出たり、汚染などにより有害物質が混入したりする可能性がある。この問題を未然に防ぐために GMP が導入されるようになった。厚生労働省では、健康食品を選ぶ基準として、一定の品質が確保されていることを示す GMP マーク(■②)を目印に選

■② GMP マーク



▲第三者機関の日本健康・栄養食品協会(左)、日本健康食品規格協会(右)が認証した健康食品につけられる GMP マーク

ぶよう呼びかけている。しかし、認定を受ける企業は少なく、認知度も低いのが現状である。

だてマスク

本来の衛生用途とは異なる目的でマスクを着用すること。素顔を隠すために1年中マスクを手放せない若者が増えていると報じた2011年1月の新聞記事をきっかけに、「だてめがね」になぞらえて、「だてマスク」ということばが使われるようになった。インフルエンザや花粉対策などの衛生用途から始め、それ以降そのままし続けて

「だてマスク」化する場合もある。理由・用途としては、「何となく落ち着く」「精神的な安心を得る」「人と話さずにすむ」「ノーメイクの際の素顔隠し」「肌の保湿」「防寒」など多様化しており、季節や男女を問わずマスクを着用する人が増える傾向にある。

アンケート*によると、だてマスク経験者の割合は、若年層で高く、20歳以下では男性24.3%、女性41.2%となっている。

*アンケートの詳細は、「ネットリサーチ DIMSDRIVE」WEBページ(<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2014/140320/>)参照。

HEADLINE

❖スマホでやけど

国民生活センターのPIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)では、「スマートフォン(以下スマホ)の充電端子の焼損や本体の発熱等」に関する相談が、2009年度は2件だったが、2012年度には523件となり、スマホの普及とともに急増している。これらの相談には、充電中に充電端子が焼損してしまった事例や、使用中や充電中に本体が発熱した事例などがあり、なかにはやけどを負った事例もみられた。

【事例①】スマホを付属品のUSBケーブルでパソコンとつないで充電をしていたところ、夜中に焦げ臭いにおい気がついて起きた。すると、USBケーブルとスマホのつなぎ目とスマホが溶けていて、さらに布団も焦げてしまっていた。

【調査結果①】充電の際、充電端子の接続部がショートに近い状態となって発熱し、この熱により周囲の損

傷にいたったものと考えられる。

【事例②】本体が熱くなり、低温やけどを負った。

【調査結果②】ゲームアプリやテレビ電話の使用によって、内部回路のCPUなどへの負荷が増大したことによって発熱したものと考えられる。

消費者へのアドバイスとして、スマホは、長時間の使用などで内部回路への負荷が増えると発熱する。さらに充電端子が壊れていたり、液体などが付着していたりする状態で充電すると、高熱で焦げる恐れがある。スマホを充電する際は、毎回充電端子の取り扱いに注意すること、また、異常を感じた場合は直ちに充電を中止し、やけど防止のため、スマホを使用する際や充電する際は、長時間肌に密着させないように呼びかけている。

* 詳細は、「国民生活センター」WEBページ(http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20140220_1.pdf)参照。

新しい動き

多様化の時代における ユネスコ活動の 活性化についての提言

▲2014年4月2日、文部科学省が「多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言」を発表した。

ユネスコは、「中期戦略2014-2021」の包括的目標として、平和とともに「持続可能な開発」を掲げ、持続可能な社会の構築をめざした取り組みに重点をおいている。2014年11月には日本で「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されることもふまえ、日本ユネスコ国内委員会が提言をおこなった。

家庭科教育のなかでも ESD は注目を浴び、研究が進められている。提言は「1. 若者および企業の参加によるユネスコ活動の一層の促進」と「2. 学校教育・社会教育等を通じた持続可能な開発のための教育(ESD)の一層の推進」の二本立てとなっているが、おもに後者について、日本が今 ESD の課題をどのように捉え、方向性を定めていこうとしているのかご紹介したい。

1. 若者および企業の参加によるユネスコ活動の一層の促進

①ユネスコ活動への広い参加を促すため、ユネスコ活動の魅力や国民の生活との結びつき等をわかりやすく伝えることが必要である。

②組織に加盟しなくてもユネスコ活動に若者や企業等が参加できる機会を拡大していくとともに、ユネスコの理念に合致する多様な活動を広くユネスコ活動として認識したうえで取り組んでもらうことができるよう、検討を進める。このために、日本ユネスコ国内委員会とは別に、ユネスコ活動に積極的に参加する意欲のある若者等が中心となって、自主的・自律的に議論をおこなう場(プラットフォーム)をもうける。

③ユネスコが開催する各種ユースフォーラムに関

する情報を積極的に発信し、公募に対する若者の応募を支援するなど、若者が参加しやすい環境を整備する。

④ユネスコ活動表彰制度など、すぐれたユネスコ活動への取り組みを顕彰するしくみをもうける。

2. 学校教育・社会教育等を通じた持続可能な開発のための教育(ESD)の一層の推進

2014年11月に開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」は、2005年から2014年の「国連 ESD の10年」を総括し、今後の ESD の推進方策を検討する重要な会議である。この節目に、課題と今後取るべき方向が示された。

①ユネスコスクール

＜課題＞2013年12月現在、675校を数えるにいたった日本のユネスコスクール数は、ユネスコ加盟国中最多である。しかし、ユネスコスクールが集中して存在している地域がある一方、まったくない県が4県あるといった地域的偏在がみられる。また、ユネスコスクール同士の交流が国外はおろか国内でもじゅうぶん進んでいるとはいえない。＜今後取るべき方向＞今後、日本のユネスコスクールは特に海外との交流を促進し、活動の質を向上するべきである。そのためには、ユネスコスクールウェブサイトの交流機能やサイト上に示す学校の活動内容をわかりやすく発信することが必要である。また、交流事業を継続させるためには、たとえば気候変動、防災・減災といった学校間で共通のテーマを明確にすることが重要である。

ユネスコスクールのない県の解消といった地域的偏在をなくすことに留意し、質と量の両面での充実をはかるべきである。

②ユネスコスクール以外の学校での ESD の推進

＜課題＞学習指導要領には「ESD」と明示的に記載されていないものの、持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれており、教育振興基本計画では ESD の推進が明記されている。ESD は、ユネスコスクール以外の学校においても推進することが求められており、このために、ユネスコスクールの地域における ESD 推進拠点としての役割を強化し、教育委員会、公民館、ユネスコスクール支

援大学間ネットワークの加盟校をはじめとする大学、企業等との連携を促進する方策を講じる必要がある。

＜今後取るべき方向＞ ESD が学校教育の内容にどのように寄与するかを明確にするなど、ユネスコスクールや ESD の活動に対して教育委員会の理解を得ることが必須である。こうした観点から、学校間や教育委員会間の交流を通じた優良事例の共有を進めることが必要である。また、保護者のもとより一般の人に ESD をわかりやすく伝えるような内容を広報するとともに、報道を通じてより広範に伝わるよう工夫する必要がある。さらに、ESD 活動は、初等中等教育でめざす生きる力の育成や、教育再生の重要課題のなかで強調されているグローバル人材育成、さらには OECD が提唱するキー・コンピテンシー等の育成にも通じるものであり、ESD をさらに推進することが重要である。

③ ESD の理論的裏づけ

＜課題＞ ESD は日本の教育の質の向上に必須の概念であり、また「知識だけではなくスキルや態度」の育成を目標とする国際的な潮流においても重要な概念であるが、その教育効果についての理論的裏づけはじゅうぶんとはいえなかった。このため、評価指標を明確にすること等を通じて、理論的、実証的に明らかにする必要がある。

＜今後取るべき方向＞ ESD の教育効果について客観的なデータで示すことが重要である。また、各個人に今後求められる資質・能力の向上に ESD がどのように貢献するかを理論的、実証的に明らかにするような調査研究を進めるべきである。あわせて、すでに実施されている ESD 関連の研究を発表する機会をもうけるなど、ESD 関連の研究成果を活用することが不可欠である。これらを通じ、ESD の概念・効果が理論的に強固なものとなり、ESD が政策面でよりの確に位置づけられることが求められる。さらに、これらの研究成果が ESD に関する教材等の作成に活用されることが期待される。

④「ESD に関するユネスコ世界会議」をふまえた

ESD の推進

＜現状＞2012年6月に開催されたりオ+20の成果文書では、持続可能な社会の実現のために、2015年以降も ESD に取り組んでいくことが決議されている。2014年は「国連 ESD の10年」の最終年であるばかりでなく、国連ミレニアム開発目標および万人のための教育の最終年を一年後に控えた重要な年でもある。

＜今後取るべき方向＞「ESD に関するユネスコ世界会議」では、日本のこれまでの ESD の取り組みや成果を効果的に発信するべきである。たとえば、東日本大震災の経験をふまえ、ESD が防災・復旧等にどのように貢献したか、震災の経験が ESD のありかたにどのような影響を与えたかなどを、日本から諸外国に伝えていくべきである。

また、2013年11月の第37回ユネスコ総会では、「国連 ESD の10年」終了後の2015年以降に推進されるフレームワークとして「ESD に関するグローバルアクションプログラム (GAP)」が採択され、2014年秋の国連総会で承認される予定である。GAP では、ESD への政策的支援、ESD への包括的取り組み、ESD を実践する教育者の育成、ESD への若者の参加の支援、ESD への地域コミュニティの参加の促進の5つの優先行動分野を示し、それに対して、政府機関、NGO、民間企業、教育機関等、多様なステークホルダーからの関与が求められている。日本は、ユネスコへの信託基金を通じた貢献のほか、企業等のステークホルダーの参画も得て、GAP に則った ESD に関するプロジェクトを実施するなど、2015年以降も引き続きユネスコ加盟国間での ESD 推進の牽引役となるとともに、国内においても GAP をふまえた ESD の一層の推進が重要である。

以上の提言については、国際的な推進枠組みである GAP のレビューが予定されている2019年までを目標年次として達成することをめざす。

Question & Answer

Q：毎年春に悩まされる花粉症。最近「無花粉スギ」「少花粉スギ」があると耳にしたのですが、どのようなものなのでしょうか？

A：「無花粉スギ」や「少花粉スギ」は文字通り、花粉をまったく飛ばさないスギや、花粉の飛散量の少ないスギのことです。国や都道府県などが無花粉や少花粉のスギの品種開発を進め、現在そうした品種を植える実用段階に入ってきています。

無花粉スギは1992年に、富山県内の神社の境内で発見されました。発見は世界で初めての事です。外見上はふつうのスギと変わらず、雄花も同様に形成されていきますが、2月下旬から3月上旬の開花する時期になっても雄花にまったく花粉がないそうです。発見後じょじょに研究が進められ、花粉をつくる雄花の機能は異常でも、種子をつくる雌花の機能は正常であることもわかりました。すなわち、雌花が受粉して正常な種子を形成できるため、繁殖能力は正常だということです。このような変異体では、特有の性質が次の世代に遺伝するかどうかということが重要となりますが、発見さ

れた無花粉スギから取った種子で苗を育て、それぞれ花粉の有無を調べる実験をしたところ、無花粉の性質をもった苗が何本も育ち、遺伝することが証明されました。こうして長い時間をかけ、無花粉になる性質の遺伝様式を解明し、品種の開発がなされ、「はるよこい」という無花粉スギの新品種として農林水産省に登録されました。

現在は、富山県が無花粉スギを組織的にバックアップしています。無花粉スギの苗を育てるためのビニールハウスが整備されており、出荷本数は2012年に5,000本を誇っています。2020年には10万本にできる見通し。富山県内ではスギの苗木を植える本数は年間4万から5万本程度なので、県内で植えるスギのすべてが無花粉スギになる日も遠くはないといわれています。

また、富山県での研究を皮切りに、全国各地で無花粉スギの開発が進められるようになりました。富山県のほか、神奈川県でも植林が始まっています。茨城県つくば市にある独立行政法人「森林総合研究所」も二品種の無花粉スギを開発済みです。

また、スギだけでなくヒノキについても「無花粉」品種がみつかっています。2013年12月、神奈川県自然環境保全センターは、神奈川県内の森林内で「無花粉ヒノキ」を全国で初めて発見したと発表しました。しかし

富山県で最初に発見された無花粉スギと違い、雌花が正常な種子を形成できない性質のため、種子を使った苗木をつくることはできません。そのため、挿し木や接ぎ木により苗木を生産することになります。今後、こうした挿し木や接ぎ木で増殖させることにより、無花粉ヒノキの苗木の生産につながっていくとしています。出荷まではまだまだ時間がかかりますが、スギを追って無花粉ヒノキも普及する日が来るようです。

無花粉スギや無花粉ヒノキより普及が先行しているのが、花粉飛散量が通常の1%以下の「少花粉スギ」「少花粉ヒノキ」です。都道府県などを經由して森林の所有者などが植林するルートができており、関東の都県の取り組みが進んでいます。2012年度は年間のスギ苗木の全国生産量の約1割が少花粉スギであるそうです。

2010年度末の時点で、少花粉スギは135品種、少花粉ヒノキは56品種開発されています。

こうした無花粉、少花粉のスギやヒノキの品種開発・普及とあわせて、毎年花粉量の予測や観測、花粉症の予防や治療が総合的に進められることによって、花粉症の対策は今後ますます発展が期待されます。
(参考：農林水産省 Webページ、神奈川県 Webページ、花粉症対策林整備推進事業 Webページ)

通巻54号

家庭科通信 2014年・2号

2014年5月25日発行

①本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。

編集人 ②大修館書店「家庭科通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

Tel (03)3868-2266(編集部)／(03)3868-2651(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 壮光舎印刷

〔出版情報〕<http://www.taishukan.co.jp>

〔家庭科情報室〕<http://www.taishukan.co.jp/kateika/>

毎日の授業に役立つ 情報が満載!! 大修館ホームページ

大修館書店 **家庭科情報室**

<http://www.taishukan.co.jp/kateika/>

出版物のご案内

Contents*教科書*副教材*Up Date

教科書や指導資料を詳しくご紹介。
デジタルパンフレットも閲覧できます。



著者 白 史郎
高校生
高校家庭
基礎

未来を拓く
高校家庭基礎
[家基308]

① 内容紹介はこちら

② 指導資料・準拠ノート

● **デジタルバンフレットを閲覧する**

▶ 編集方針

▶ 紙面見本

▶ 編集原書
シラシロ 白

▶ 編入

▶ 実習紹介

▶ 年間指導計画書

▶ 検定の観点と内容
特色

ホットな数字・キーワード・データを掲載します。

Number Now

「今」を知る・考えるきっかけとなる数字をご紹介します。

Key Word ▶

各分野に関連するキーワードをご紹介します。

- ・人の一生
- ・共生
- ・衣生活
- ・その他
- ・子ども
- ・経済・情報
- ・住生活
- ・高齢者
- ・食生活
- ・環境

Data File ▶

各分野に関連するデータをご紹介します。

- ・人の一生
- ・子ども
- ・高齢者
- ・共生
- ・経済・情報
- ・食生活
- ・衣生活
- ・住生活
- ・環境
- ・その他

情報のひろば

Contents*家庭科通信* きょうの特別講義

*あしたの授業研究 *お知らせ *Number Now

*Key Word *Data File *関連書籍のご紹介

家庭科のいまをみつめ、これからをつくる

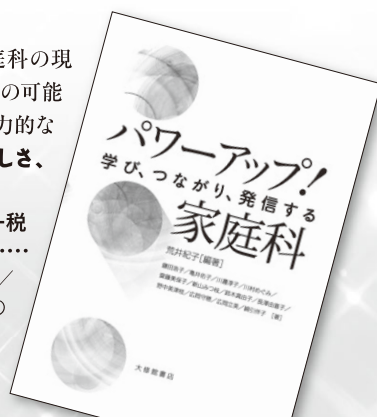
パワーアップ！ 家庭科

—学び、つながり、発信する
荒井紀子[編著]

全国規模の調査等をもとに、都道府県ごとに異なる高校家庭科の現状を分析し、家庭科教師の生の声を収載するとともに、家庭科の可能性やおもしろさを探り、教師のパワーアップをはかるような魅力的な取り組みの実践例を多数紹介。学ぶおもしろさ、つながる楽しさ、発信する醍醐味を伝える、これからの家庭科をつくる一冊。

●A5判・208頁 定価＝本体2,000円＋税

【目次より】第Ⅰ部 家庭科はおもしろい[家庭科のもつ現代的意味／家庭科へのエール] 第Ⅱ部 家庭科のいま[家庭科の役割／家庭科の実像／教師は家庭科をどうとらえているか／…] 第Ⅲ部 これからの家庭科[新しい家庭科をどうつくる／新しい家庭科の授業／家庭科を学ぶおもしろさ、楽しさを演出しよう／…]



大修館書店

書店にない場合やお急ぎの方は、直接ご注文ください。☎03-3934-5131

家庭科への 参加型アクション 志向学習の導入

【 22の実践を通して 】

【編著】中間美砂子

【著】小椋さやか、久保田まゆみ、小谷教子、坂本理恵子、真田知恵子、新山みつ枝、野中美津枝、踏江和子

せりふ完成法、アンケート調査、ランキング法、ロールプレイ、ワークショップ etc.……生徒が実際に行動することを通して能動的に学ぶ「参加型アクション志向学習」を取り入れた家庭科の授業例を、高等学校における22の実践例から具体的に紹介。授業の実践がわかるプリントやワークも掲載。中学校や小学校での実践にも適用できるヒント満載！

●B5判・180頁 定価＝本体2,000円＋税 978-4-469-27001-3



大修館書店

書店にない場合やお急ぎの方は、直接ご注文ください。☎03-3934-5131